

異学年合同特別活動学習指導案

1 グループの実態

目標

互いに思いやりをもって活動できたり、接したりすることができる。

準備

5・6年生については、宿泊学習、修学旅行等を経験しており、3・4年生は校内での委員会活動や縦割り班活動（清掃班、登校班）などを経験している。また、学級単位でSST（ソーシャルスキルトレーニング）を数回実施している。

感情

仲間同士穏やかに接することができる。時に、共感・思いやりに欠けるところがあり、自己主張が強く、思い通りにならないと機嫌をそこねる児童もいる。また、思い通りにならないことを他人に責任転嫁する傾向もある。

態度

グループの中で、仲間同士の同意、妥協は可能である。決して妨害的ではないが、時に反抗的な面が見られる。静かに聞くことは難しく、活動に対しては受け身的である。

身体

欠席者も少なく、活動を行うにあたって身体的な配慮は必要ない。しかし、基本的な生活習慣が身につけていない児童もおり、睡眠を上手にとれない児童も数名いる。

背景

自身を取り巻く人間関係が希薄で、無理に注意をひこうとするなどコミュニケーション作りに課題を抱える児童もいる。家庭ではおとなしいが、学校生活で大変元気になる児童が数名いる。

発達段階

個々の発達段階は学年に応じて様々であるが、グループとしては、強いものに流され、適切な判断ができないなど人間関係（力関係）が固定化したグループであるといえる。

2 授業の実際

(1) 実施について

- ① 対象児童…小学3・4・5・6年生（男17，女17計34名）
- ② 日時・場所…平成21年6月23日（火）14:00～ ※体育館
- ③ 学習形態…男女混合異学年全体での活動

(2) 題材名 課題解決学習「自分たちの学校を自分たちで作ろう」

(3) 目標

- （感情） 学校の友だちと一緒に考え、活動することを、お互いに楽しむことができる。
- （行動） 意欲的に活動に参加し、成功に向けて努力することができる。
- （認知） お互いの力を出し合って協力することで成功につながることを知ることができる。

(4) 本時案

- ① ねらい 仲間を頼る心地よさと成功の達成感を体験することで、一人ひとりの力を出し合って協力することの楽しさを実感することができる。
- ② 準備物 ポイントマーカー（人数分）、ロープ2本、筆記用具（生徒）
- ③ 学習の展開

活動の内容	AFPY の視点
<p>1 意識のウォームアップをする。 「フィンガークロス」 「フィンガーソーセージ」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>小さなAHA体験で意識を活性化させる。</p> </div> <p>「サンダンス」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>2人組みからダンスを始める。手をつないで右足からタップを踏み、左足も踏んだらタップの回数を順次5回まで増やしていく。5回からは減していき、最後は手でタップする。人数を増やして最後は全員で肩をもって行う。</p> </div> <p>2 本時の課題解決学習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 川に浮かべた浮きを使い、全員でつながって1人残らず川を渡る。 「マシュマロリバー」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>全員がアリになり、1つずつマシュマロ（ポイントマーカーを手にする。川岸から対岸に向かって、川に浮かべたマシュマロを踏みながら対岸まで渡る。岸から離れた場合は、川にいたもの全てが流される。</p> </div> <p>3 グループでふりかえりをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことが楽しかったですか。 ・ 嬉しかったことはありますか。 ・ この活動で自分は何を感じましたか。 <p>4 ふりかえりを共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことが話題になりましたか。 <p>5 個人のふりかえりをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ふりかえりシートに気づきや感想を書き込む。※事後に教室単位で行うことも可能 </p></p></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム的要素の強い活動を行うことで子どもたちの意識を活動に集中させる。 ・ 全員で行える活動で、次の活動への意識付けを図る。 ・ 全員で渡りきるというイメージが、みんなで1つのことをやり遂げるといったイメージにつながる。 ・ 高学年の児童に下学年のまとめを意識させ、高学年としての自覚をもたせる。 ・ 下学年の円の囲むように、高学年の円を作り、これが話し合いの形になることを意識する。 ・ 話し合いの形にすることで、全員がふりかえりを共有することができる。 ・ 発表を強制しないふりかえりにしたいが、発表が活性化しないときは数人を指名して発表してもらうことも必要。 ・ ふりかえりシートは担任が目を通し、必ず肯定的な所見を書き加えて児童に返す。

2 備考

AFPY の活動は、冒険（アドベンチャー）がベースの体験学習である。安全な冒険のためには、それを行う準備が必要で、グループのメンバー全員が同じ目的を持って進み始めることと、全員で作成し全員が納得した約束が不可欠である。

今回の活動は、ゲーム的要素の強い活動を通じて、楽しい雰囲気の中で協力という意味について考えることができるようになっている。クラスの目標や約束を確認して（作って）活動を始めるといったことが難しいため、ふりかえりが一般的になってしまうことも危惧されるが、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の色の強い活動でもあるため、グループがグループとして成立するための具体的な意識や行動の指針となると考えることもできる。

AFPY は、クラスの人間関係をより豊かにしていくために大変有効な教育活動であり、それにより個々が安心して学習に取り組める雰囲気をクラスに醸成することができる。

AFPY はその教育理念から、教科を越えた活動を展開することが可能であり、1年を通じて無理なく学級づくりに取り入れていくことができる。AFPY は多くある教育手法の一つであるため、これを実践しなくてはならないというわけではなく、AFPY を知らずとも、子どもをその気にさせ、結果を出し、意識と行動を次につなげていく温かい教育を展開されている先生方も少なくない。